

【ひろしま避難者の会「アスチカ」とは？】

避難者による避難者のための会です。

東日本大震災の地震や津波、東京電力福島第一原発事故の避難者がここ広島で生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら、避難生活を落ち着かせ、次のステップへ踏み出すことをサポートする当事者団体として設立しました。現在、アスチカには 98 世帯 318 名の避難者が登録しています。

※「アスチカ」＝「明日へすすむ力」

表1 広島県把握の避難者数

	世帯数(人数)	%
岩手	2 (3)	1.8
宮城	27 (50)	23.9
福島	55 (154)	48.7
その他(関東地方など)	29 (70)	25.7
計	113 (277)	

2022年1月31日

※表1の人数は全国避難者情報システム(総務省)への本人からの登録により把握されている人数です。すべての避難・移住者が登録しているものではありません。広島県にも未登録の避難者が数多くいます。また、登録解除をされる方もいます。3.11 からこれまで、正確な避難者数の取りまとめは行われたことがなく、全国の支援者からはそれが今も求められています。

表2 アスチカ会員世帯 避難元別

	世帯数(人数)	%
岩手県	0 (0)	0.0%
宮城県	8 (25)	8.2%
福島県	46 (145)	46.9%
関東地方	44 (148)	44.9%
計	98 (318)	

2022年2月28日

新規入会世帯は1世帯。退会5世帯。

98世帯のうち4世帯は現在他県在住。広島から他の土地へ移られても情報の獲得やつながりを維持したい方は会員(準)として登録いただいています。

表3 アスチカ会員 世帯状況

	世帯数	%
単身	9	9.2%
大人のみ	19	19.4%
大人+子ども世帯	70	71.4%
(うち母子世帯)	18	18.4%

子どもは18歳以下をカウント。2011年に生まれた子どもも今年は小学5～6年生。震災時小学1年生だった子どもは現在高校3年生となっている。子どもが成長し、世帯全員が19歳以上となって大人のみ世帯とカウントされる世帯も出てきた。

アステカ会員アンケート結果 回収数 45世帯／98世帯(回収率 45.9%)

2月12日(土)郵送により配布 3月4日(土)までの回答分を集計

Q1 住民票は異動しましたか？

	回答数	%
異動した	43	95.6
異動していない	2	4.4

(異動した理由・その他)
・住居購入したため

異動した理由 (複数回答あり)

	回答数	%
移住だから	18	41.9
今、住んでいる場所だから	11	25.6
避難先へ納税	1	2.3
仕事の都合	1	2.3
子どもの保育園や学校の都合	7	16.3
公営住宅入居のため	5	11.6
無回答	3	7.0
その他	1	2.3

異動しない理由 (複数回答あり)

	回答数	%
不都合がない	1	50.0
家族のつながり	1	50.0
避難元の子どもの医療費支援が充実	0	0.0
福島県県民健康調査などの健康管理の維持	0	0.0
避難元への愛着	0	0.0
復興住宅への入居意向のため	0	0.0
その他	0	0.0

Q2 避難の理由は何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
地震による家屋の消失・損壊	6	13.3
津波による家屋の消失・損壊	1	2.2
原発事故による強制避難	5	11.1
原発事故による健康影響(含、不安)	39	86.7
仕事がなくなった	2	4.4
精神的ストレス	15	33.3
余震への不安	9	20.0
原発事故悪化への不安	24	53.3
その他	5	11.1
無回答	0	0.0

広島には原発事故の影響で避難した人が多く、土地柄もあり、原発事故への関心も高く持っています。しかし、津波と地震の影響で広島に来ている人も確実におり、広島での定住を決めている方もいます。そういう方がいることも知っていただくとうれいです。

(その他／自由記入)

- ・今後の仕事への不安
- ・住める(住みたい)土地が見つかった
- ・将来子を産むとなった場合に、原発の影響を考えた。

Q3 広島へ避難された理由は何ですか？

(複数回答あり)

(避難者への支援がある：具体的に)

・市営住宅の提供

(その他・自由記入)

・夫の転勤先だったので

・出身地だから

避難の時期が早い会員は「家族・親族がいる」の選択が多め。関東からの避難者は仕事を確実に決めてから移動されている場合が多い。「被災地から遠い」「西の食材が手に入りやすい」という選択が多いのは原発事故での避難者が多いから。

高校卒業後の子どもの進学に合わせ、広島に来られた世帯もある。

	回答数	%
地震等自然災害が少ない	6	13.3
被災地から遠い	13	28.9
自然に恵まれている	5	11.1
被爆地であることへの期待	6	13.3
生活が便利	1	2.2
家族・親族がいる	21	46.7
友人・知人がいる	7	15.6
知っている避難者がいる	1	2.2
たまたま仕事が見つかった	10	22.2
以前住んだことがある	2	4.4
西の食材が手に入りやすい	7	15.6
一時避難・保養に来た縁	2	4.4
避難者への支援がある	3	6.7
その他	4	8.9

Q4 住居について

①現在お住まいの住宅は？

	回答数	%
県営住宅	3	6.7
市・町営住宅	5	11.1
ビレッジハウス(旧雇用促進住宅)	1	2.2
実家、親戚宅	4	8.9
持ち家	10	22.2
民間賃貸住宅	20	44.4
民間借り上げ住宅	0	0.0
その他	2	4.4

②避難者向けの住宅支援を受けていますか？

	回答数	%
はい	0	0.0
いいえ	45	100.0

避難者向けの住宅支援はほぼ終了しており、会員で避難者向けの住宅支援の対象者はいない。

(その他)・親の持ち家 ・民間無料住宅

Q5 避難・避難後の生活で、あってよかった支援、欲しいor欲しかった支援は何ですか？

この10年を振り返って、あって助かった支援、欲しかったがなかった支援を挙げてもらいました。避難元によって受けられる支援が違っているので、受けられた人と受けられなかった人がいたものもあります。情報が得られず、対象者であったのに受け取れなかった支援もあったと思われます。

また、公的支援ではなく、民間の支援につながり、支援を得られた方もいます。

《あつてよかった支援》

- ・避難者雇用
- ・交流会（広島市社協）、交流カフェ（アスチカ）で同じ境遇の方に出会えたこと
- ・生活用品をいただけた。（運んでもいただけた）
- ・住宅支援（公営住宅の提供、民間借り上げ住宅）
- ・アスチカが存在したこと、支援団体があること
- ・ふるさと⇄ひろしま架け橋ツアー（※福島の助成金を利用した福島の交流会参加のための交通費支援）
- ・アスチカから知らなかった避難者支援情報を定期的に送ってもらえたこと
- ・健康相談会や甲状腺エコー検査体験会
- ・避難元へ帰る際の高速料金無料
- ・本願寺旅費支援（※福島以外の避難者対象の帰省費支援）
- ・1年間お米の無料配布があり、大変有り難かった
- ・病院の負担免除
- ・呉のつばきカードによる浦安グリーンピアのお風呂無料サービス
- ・中国新聞購読料無料（1年間）
- ・コンサートチケット
- ・1年間の水道代免除 など

《欲しい・欲しかった支援》

- ・原発事故によるホットスポット地域からの避難に対する移住支援
- ・旅費支援
- ・小学校や中学校の口コミや評判についての情報
- ・保育園の緊急入園手続き
- ・住宅支援（※関東からの避難者の方）
- ・仕事の紹介
- ・人のやさしさ
- ・東電に対しての弁護士の支援
- ・自治会、組合とのコミュニケーション、移住受け入れに関するサポート
- ・小さい子連れだったので似たようなご家族の多い環境を得ること
- ・今一番欲しているのは家賃補助
- ・帰省費用支援の復活
- ・避難元別ではなく、一律の生活支援給付金のようなもの
- ・子ども達の学費支援。制服等学用品の補助など。
- ・避難元とのつながりを持てるような支援
- ・引っ越し後の住居受け入れ支援（※住宅支援対象者でも一度引っ越すと住宅支援が切れてしまっていた）
- ・避難当初からの住宅支援（※広島県で、福島の自主避難者への住宅支援は2011年12月～）

Q6 世帯の18歳以上の方の就業状況。

	回答数		回答数
正社員	21	専業主婦・主夫	10
契約社員	0	学生	11
嘱託社員	0	求職中	0
派遣社員	3	無職	2
自営業	15	その他	7
パート	14	無回答	5
アルバイト	2		

(その他)
 ・公務員
 ・年金生活

Q7 生活費・収入は十分ですか？

	回答数	%
十分	4	8.9
まあ満足	23	51.1
苦しい	17	37.8
無回答・その他	1	2.2

(その他)「まあ満足」と「苦しい」の中間ぐらい

Q8 生活面(住まい・仕事など)に関して、ご自由にお書きください。(お悩みや思うことなど)

- ・今までは何とかやっていたが上の子が今春大学に進学するので不安です。
- ・私の仕事がコロナにより激減してしまったこと。
- ・夫が単身で関東に住み、子どもと離れて長いのでそろそろ合流したいという希望が出ているが、子どもは広島を離れたくないというので悩みます。
- ・3.11の経験から、災害時や来るべき次の災害のことなどに重きを置いた感覚で暮しているので、住まいや仕事に対して集中・愛着を持ちすぎないまま暮している気はします。
- ・給与水準が低い
- ・貯金が少しずつ減っていくので不安。でも、食べるものに恵まれているのが何よりの良い点で、もう引越す気になれない。本業(農業)の合間に出来るバイトがなく、収入源が農業のみなので、なかなか安定しない。
- ・最近シングルマザーのグループに入り、情報交換(支援・イベント etc)できるようになり、嬉しい。
- ・広島が、東京や大阪のように、私立高校が公立高校より成績が良いということがよくわからず、塾の必要性がよく理解できず、公立学校の先生たちにもっと頑張ってもらいたいとほとんど怒りを感じていました。自分が切り替えればよかったと今は思っていますが。
- ・物の選択の余地がない。売られているものから選ぶしかない。(食品や花)
- ・夫婦で週1回ずつ働いて生活は安定しています。子どもは3人元気。
- ・さすがに大学の資金、授業料など桁違いにかかるので毎回赤字で今も預金すらできていない。年齢も年齢なのでお葬式代ぐらいは貯めたいが、なかなか貯められず、どうしたらいいものか。。。この年齢で働き口もないだろうし、お金が降ってこないかなあーと毎回思う(笑)
- ・現在住んでいる地域の学校・教育環境に不安がある。
- ・不自由はないですが、あくまで仮であるところから動けないことが悩みです。
- ・「持ち家」を望んでいたが、マンションも戸建も中古でさえ数年前よりとても高くなっていて手が出ない。

Q9 ご家族の中(避難元の親御さんなども含め)で健康に不安のある方はいらっしゃいますか？

	回答数	%
はい	22	48.9
いいえ	19	42.2
無回答	4	8.9

避難元の親の健康に不安のある方が多くいました。
また、自分自身の加齢による体調不良を感じている方も増えているようです。

Q10 今後のご予定は決まっていますか？

	回答数	%
今住んでいる自治体へ定住	16	35.6
避難元ではないところへ移動	2	4.4
避難元へ戻る	1	2.2
決めていない	19	42.2
上記に当てはまらない	6	13.3
無回答	1	2.2

①避難元に帰りたい：5
②避難先に定住したい：9
③選択なし：5

(今住んでいる自治体に定住)

- ・そのつもりで移住したし、もう移動するお金がない。
- ・家を購入したため
- ・子どもが中学へ進学するので。
- ・農業をしているので、動きたくない。
- ・生活の基盤が出来たから。
- ・気に入っているから
- ・主人の仕事の面の都合上

(いずれ避難元へ戻る)

- ・長男で家や墓を守らないといけないから

(決めていない) ※①避難元に帰りたい ②避難先に定住したい ③選択無し

- ①様々な理由(他の原発の爆発、子育て)でそのうちどこかへ行くかもしれない。避難元に戻りたいけど放射能コワい。決めずにいたい気持ち。
- ①命があればという極限状態に比べたら、何も言えないのですが、時刻と空の様子はずれ、東北に比べ四季のメリハリのなさ、広島の方のアクセントなどにたまに妙に反発心を感じたり…感謝しなきゃと押し込めるのが難しくなっています。
- ①一番下の子は今年中学へ入学。どのような進路になるか、それにもよる。戻っても職探しから始めないといけない。住むところも。親戚や気のおけない友人たちのいる地元へはいつかは戻りたいが、今は子育てが先かな。
- ①やっぱ地元がいい。公営住宅も収入制限があり、そろそろ出て行かなければいけない。
- ②今、広島で安心して生活できているから。
- ②避難元へ帰ることに抵抗感が消えない。暖かいところに住みたいと思う。
- ②放射能のことを気にせず暮らせるため

②避難元には不安のイメージが強く、体調に影響がある。しかし避難元に家族がいるのでどうしたらよいか悩んでいるところ。

③子どもが巣立ったら、広島に居る必要もなくなるので、その後どうするかまだ決めていない。

(上記には当てはまらない)

- 私と子どもは広島に定住したいが、旦那は避難元に戻りたいと言っている。
- 主人の仕事次第
- 避難元に居る実家の両親を思うと避難元に帰った方がよいかと考えるが、夫と子ども達はそのまま避難先に住みたいと希望している。
- 何かあったら次に動くかも、と常に移れるような感覚でいるから。
- 実母(広島)のことがあるのでどちらも大事にしていこうと思っている。
- 人生何があるか分からないので

「定住」以外が6割越え。「決めていない」の増加。10年経ってみて、子どもの成長や高齢になってくる親の姿、広島での生活の現状、望郷の念、当初は見えていなかったことに直面するなどして新たな気付きや気持ちを持つようになってきているようです。決め過ぎず、柔軟に対応していこうという様子も見えます。

Q11 今、大変なこと、つらいことは何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
仕事が見つからない	5	11.1
仕事にやりがいを感じない	2	4.4
生活費が足りない	11	24.4
支援が縮小していくこと	8	17.8
避難指示が解除されたこと	0	0.0
避難指示が解除されそうなこと	0	0.0
体調不良	8	17.8
忙しすぎる・自分の時間がないこと	7	15.6
親の介護	4	8.9
育児	1	2.2
子どもの教育・進路	5	11.1
家族バラバラに暮らしていること	6	13.3
避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと	20	44.4
心の余裕のなさ・精神的な不安定さ	5	11.1
家族間の意見の不一致(夫婦間、パートナーと自分)	4	8.9
家族間の意見の不一致(自分と親)	2	4.4
家族間の意見の不一致(自分と子ども)	0	0.0
避難元が復興しないこと	0	0.0
避難元の復興が望む形と違うこと	1	2.2
避難元に帰れないこと	7	15.6
今住む地域に親しい友人がいないこと	7	15.6
避難元の友人と疎遠になってしまったこと	9	20.0
震災や原発事故のことが世間から忘れられているように感じる	14	31.1
原発が再稼働されたこと	12	26.7
避難先の人たちと意識の差を感じる	9	20.0
避難への無理解	3	6.7
特になし	2	4.4
その他	4	8.9
無回答	6	13.3

(その他・補足説明)

- ・将来の教育資金や貯蓄
- ・避難元にいる親の体調が悪く、高年齢でもあるが、面倒が見られないこと。
- ・コロナで気にすることが多いこと
- ・コロナ禍で仕事と日用品の買い物以外どこへも行けずストレスを感じている。
- ・困ったときに気軽に頼れる人がいない。やっぱり家族、親戚、幼馴染などが近くにいないのはきつい。親戚の付き合いがとても濃い地域に暮らしているので、余計に感じる。
- ・家を探そうにも賃貸か購入かで決められず、広島に来て 10 年でも「地に足がついてない」子どもが手を離

れているのでこの先を考えると広島に居なくてもいいのでは？と思う。

- ・親のことについては本当に大変な問題です。そのために広島⇄避難元を行ったり来たりしていると体力も経済的にも余裕がなくなります。
- ・年齢が年齢だし、仕事をしていません。習いごとにはしていますが、新しい人間関係=友人を作ることが出来ないのが残念です。
- ・原発事故のことが教訓となって、それを防ぐ意識や仕組みが徹底されているなら 3.11 のことが忘れられてもいいと思うが、むしろなかったことのように進んでいてむなしい。

コロナもあって、避難元の親や親族と会える機会の少なさは増しました。寂しさを訴える声は多くなっています。また、仕事面でコロナの影響を受けた方もいて、生活が安定しかけた避難者にとっては、またもや足元がぐらつくこととなり、精神的にもしんどさを感じている人もいます。原発、原発事故、その被害に対しては、避難者同士で共有しているような気持ちが、日常の周囲の人とはなかなか共有できていない感覚を持っている人が多いようです。

Q12 今後、どんなことに不安がありますか？

(複数回答あり)

	回答数	%
避難先の生活が安定するか	9	20.0
自分の健康が保てるか	19	42.2
家族の健康が保てるか	20	44.4
避難し続けられるか	3	6.7
公的支援がいつまで続くか	4	8.9
避難指示が解除されること	0	0.0
子どもをしっかりと育てられるか	8	17.8
子どもの教育・進路	11	24.4
家族と一緒に暮らせるか	4	8.9
夫婦の関係が悪化しないか	6	13.3
避難元の親・親族との関係、付き合い	12	26.7
避難元へ帰れるか	4	8.9
避難元へ帰らなければいけないこと	1	2.2
避難元へ帰った時に孤立しないか	2	4.4
避難元にいる親の老後・介護	18	40.0
避難先での人間関係	5	11.1
特になし	4	8.9
その他	2	4.4
無回答	4	8.9

(その他/補足説明)

- ・3.11のことが忘れられ(記憶が薄れ)、大きな犠牲の教訓が活かされないこと。
- ・主人の仕事が安定するか(自営のため、コロナがあり収入がないこともあった。)

- とにかく避難元のひとり暮らしの義母の健康状態が気になります。
- 先が見えない。日々暮らすことに精一杯で、いろいろ解決していけていないので不安が不安のまま。

自分や家族の健康と避難元の親への心配は今年も回答が多くありました。
「避難先の生活が安定するか」を選ぶということは、「安定していない」ということの裏返し。10年あっても、一から生活を作り、安定させることは簡単ではないことを実感します。

Q13 震災から間もなく11年の時期になって、変化してきたことは何ですか？良いことでも悪いことでも気づきがあれば教えてください。

震災から11年経って変化してきたこと(複数回答あり)

	回答数	%
気持ちが穏やかになってきた	5	11.1
あきらめのような気持ちが強くなった	16	35.6
生活が安定してきた	10	22.2
楽しいことをしようという気持ちになってきた	9	20.0
無気力になってきた	3	6.7
前向きな気持ちになってきた	5	11.1
将来への不安が強くなった	5	11.1
広島に定住する気持ちが固まった	5	11.1
避難元へ帰りたい気持ちが強くなった	4	8.9
怒りが強くなった	3	6.7
変化はない	4	8.9
その他	8	17.8
無回答	3	6.7

(その他)

- 友達が多くなった。
- 原発をなくしたいという思いが強くなってきた。二度と自分と同じ思い(心が壊れることによって家族がバラバラになる)をする人があってはいけない。
- 避難してすぐは、こちらの生活を軌道に乗せるのに必死だったが、生活が安定してきたら、避難元の両親のことが心配。高齢になり、何か手助けに行きたいと思っても遠距離のため、すぐに会いに行けない。
- 避難先で暮していること前提の感覚で、福島のことを見聞きするようになった。
- 私たちが広島へ引っ越した当初頃、福島ナンバーの車でガソリンスタンドに立ち寄った時、サービスが悪く心を痛めたことがありました。今は全くなく、すっかり広島県人として生活をしています。
- コロナ禍で震災と同等と言っていいぐらいの大変なストレスを感じている。年齢も重ねてきているのでさらに心身のストレスが増大しているように思う。
- 実家の親の老いを感じる。
- もう両親も死んでしまったし、実家も取り壊してしまったし、帰れる家もない。震災さえ、原発さえなければという残念な気持ちと、しがらみから解放されたという気持ち。
- 初めから楽しかったし、今も楽しい。

- ・なにも変わってない気がする。生活は安定してないし、いろいろ迷っているし。ただ子供は大きくなった。
- ・生活がようやく落ち着きかけていたタイミングで親や祖母の介護問題が発生したので、新たな問題に立ち向かっているところです。

「あきらめのような気持ち」が最多。

また、前問で見たように「生活の安定」を得られていない世帯がある一方で、生活の安定を感じている世帯もあり、世帯ごとの状況の違いも大きい。今年はいくつも選択肢を選ぶ人は少なかったです。

Q14 自分を「避難者である」と言うことに抵抗はありますか？

	回答数	%
とても抵抗がある	3	6.7
少し抵抗がある	10	22.2
あまり抵抗はない	15	33.3
全く抵抗はない	16	35.6
無回答	1	2.2

これまでの体験からの気持ちがあったり、「避難者」という言葉の捉え方が人によって違ったりすることが見て取れます。

とても抵抗がある

- ・そこから脱出したいので
- ・直接の被害はなかったのに。
- ・もう定住だから

少し抵抗がある

- ・関東からの避難は理解されにくい。言いづらい。
- ・月日経っているのに、生活が何も変わってないから
- ・自主避難者。というような扱いだから。
- ・相手を戸惑わせることになってしまうことがあるから。

あまり抵抗はない

- ・事実だから
- ・言う機会がないから
- ・避難の経験を通して震災を語っていいこうと思っているため
- ・”全く“ではない理由として、もともと福島で移住者だったので、福島が故郷ではない私がそう言っているのが悩む。
- ・福島は私にとっては生まれ育ったところなので避難者でいたい。
- ・ここで生活して、最初にそれを言う方がよいと思うことが多かったため。
- ・拒絶もされず受け入れてもらっている感を感じる。避難者検診もしてくれて有難く思っている。
- ・ずっと避難者支援しているから。

全く抵抗はない

- ・避難はしたから
- ・(心の面で)広島県民にはなれない。
- ・3.11のことを周囲の人々に考えてもらえるのでよくも悪くも発信していいこうと思っている。
- ・そういった存在がいることを知ってほしいので。
- ・私も避難者なんだということ、こうしたことは大小に関わらず(ウクライナやシリアとかだけでなく)存在しうるし、いつわが身に降りかかるか分からないものだと知ってほしいです。

Q15 お子さんと避難した方へ伺います。

避難したこと、避難してきたからのことについて、お子さんと話をしたことはありますか？

	回答数	%
はい	25	55.6
いいえ	5	11.1
無回答・回答対象外	15	33.3

他県の支援団体との交流の中で、震災から11年が経過し、大人に近づいてきた子ども達から本当の気持ちを出せなかった、聞いてもらえなかったといった声があることを知り、新たな質問をしました。

① (はいの方) お子さんはどのような話をされましたか？

《子どもが話したこと・様子》

- ・自分の健康を優先して親が移住を決めたことは理解している様子です。
- ・学校のこと、そこでの生活のこと。
- ・2歳半だったので、「ほとんど覚えていない」といいます。
- ・避難してきたことによって、いろいろな経験が出来たし、友達も増えた。放射能を気にせず、屋外でのびのびと活動出来たことがよかった。
- ・「家族が離れ離れで寂しかった」と5年ぐらいたって話した。
- ・避難したときは小学1年と2年生だったので、避難元の様子をあまり覚えていないようだ。
- ・広島へ来てよかったと言ってくれたのが一番ほっとしたし、嬉しかった。
- ・話をしても答えは返ってこない。
- ・祖母と離れるのが淋しい。
- ・なぜ避難をしているのかという親の説明に「わかった(納得した)」と。

《親から話したこと》

- ・原発から放出された(ている)放射能の影響
- ・原発事故の2か月前に避難元の自宅で生まれたこと、お父さんはがんばってがんばって病気になってしまったこと、ネコを先月ガンで亡くし、福島の自宅に半年置いたままにしてしまったことが原因ではないかと思っていること。
- ・子供は0才だったので、当時のことは覚えていませんが、どんな事故があって、どうして避難してきたのかを伝えています。子供は原子力発電所が危ういことや放射能の恐さを理解しているようです。
- ・全て。避難先で出産したこと、震災で生活がどう変わったかなど。
- ・身体が第一だから広島に越してきた。だから体を大事にして生きてほしい。
- ・福島に住めなくなった理由について。原発の怖さとその原因は自分たちの生活にあるということ。
- ・震災から毎年、どこで生活(進路)したいのか？気持ちを聞きながら過ごしている。その度に福島・広島のことの話をしている。
- ・1歳半だったので記憶はないです。しかし、食べ物の選び方などについて原発事故のことを話す機会があった。子どもなりの理解はあったように思います。

② 避難したことによりお子さんが抱えてしまった悩みはありますか(ありました)か?また、それについて家族で話したことがあればお聞かせください。

- ・引っ込み思案だったこと、クラスが1つしかない学校で他の子どもはみんな小さいころから一緒に大きくなった環境だったので、なかなかなじめなかった。
- ・父親がそばにいないため、母と子のつながりが強すぎるのか少し疲れているように感じる
- ・将来の健康不安があるようです。「がんになったら嫌だな」とよく言います。そのための健康観察と日々の食事が大切なことは理解しているようです。
- ・父親の仕事が(関東圏以外の)国内で見つからず、一時的に海外へ住んだことで日本の習慣に違和感を持つ自分になってしまったのではないかと本人から言われたことがあります。代わりに外国語ができるアドバンテージがあると説明しました。
- ・家族で改まってしたことはないかもしれませんが、引っ越しが何度もあり、その都度そこに慣れなければならなかったこと。親についていくしかなかったこと。
- ・知らない土地への不安
- ・抱えてしまう前に子どもの意向で転校したりした。「希望しても叶わないよね」と言っていたが、叶うことを実現させてきた。今になり、母として頑張る姿を見せてたことで社会人になった子どもが社会に出て疲れた時に弱さを出したくなった。私が休まないことが子どもに頑張ることを良いこととプレッシャーを与えていたのかと反省した。今年から無理をしてしまう自分自身の生き方を少し変えようと思っている。子どもの声をきちんと聴いているのか、押し付けていないかにも気を付けている。
- ・言わないけど悩んでるんだろうと思うこともある。というか、自分の方が悩んでる?本当に避難して来てよかったのか、と…。
- ・なぜ引っ越しをしたのか?理解が難しくお友達やそれまでの生活が激変したことへの対応が大変だったように思います。
- ・避難元の祖父母と思うように会えない。長期休み(夏休み・冬休み)にはできるだけ帰省をする、電話やメールでコンタクトをとるようにしている。
- ・友達の食べているものが食べられないことなど気にしていたようです。

③ (直接避難について話をする以外の)お子さんの日常の言動から、避難したこと、避難してからのことについてどう捉えているか、どう思っていたかなど、感じ取ったことなどがあればお聞かせください。

- ・地震が起きたときのことを詳しく聞きたがった時期があり、何度も同じ話をしました。(小1~2年生のころ)本人は震災当時はおなかの中だったため記憶はありません。
- ・なかなかなじめなかったことが辛かったと言っています。(受け入れてもらえなかった)
- ・息子から「お父さんはがんばってがんばって病気になったのだから、ひどく言わないで」と言われました。
- ・普段はあまり気にしていないようで、避難のことは子供からは口にしません。
- ・最初に母子避難、その後、夫と合流するときに二度目の引っ越し、そして今後また夫の仕事の都合で引っ越し可能性が出てきたことについて子どもはとても負担に思っている。
- ・子どもの中で、関東に住むのは怖いという意識が育っているのを感じる。
- ・友人関係を作るというより、本に没頭するようになり、そこでの生活のしづらさは感じていました。
- ・自家用車が福島ナンバーだったころ、乗車をためらったことがあった。また、学校生活の中でも避難してきたことを隠しているわけではないが、積極的に話したりはしていない様子。
- ・進学を機に避難したので、(本人に)避難したという認識はない。

- ・「原発こえ～」という感覚
- ・本人のものごころがつく前のことなので、こういうものだとは思っていたようです。ただ、「よその家という違うようだ」という感覚は未だに影響があるように思います。
- ・基本的に肯定的にとらえていると感じる。

Q16 発災から10年以上が経ちました。避難生活の中でよかったと思うこと、つらかったと思うこと、自分自身の気持ちの経過、今だから思うことなど、これまでを振り返ってのことをご自由にご記入ください。

- ・縁もゆかりもないひろしまでしたが、子育てを通して知り合いやママ友が増えたことはプラスでした。つらかったことは避難できなかった地元の友人と心の距離を感じたとき。主人との別居がいつまで続くかわからなかったとき。
- ・10年前に所有していたものの多くは失ってしまいましたが、代わりに得たものの方が多かったので、結果として自分的には良い変化を行けたと思う一方、家族と一緒に暮らせなかったり、子どもに大きな環境の変化を体験せざるを得なかったりしたことは彼ら(夫と子)にとってどうだったのか未だに分かりません。
- ・避難できたのが2014年でした。それまで保養に出たりしていましたが、移住に踏み切るまで時間がかかってしまいました。もっと早く避難元を出たかった思いが強く、子どもを守ってやれなかったと後悔の念がずっとありましたが、10年経ち、ようやく当時の自分は精いっぱい頑張ったと認めてあげる気持ちになり、前へすすんでいけるようになってきました。今は子供が3人になり、子育てで忙しいですが、避難元の両親が高齢になってきて、今後のことが気になってきました。子育て終えたら避難元へ戻る気持ちが出てきています。災害はどこでも起きる、ここなら安全という場所はないと心得て、いつも自分の身を守る方法を考えて暮らさなければと思っています。
- ・放射能の影響が心配で望んで移住したが、移住先が地元の人の多いところだったこともあり受け入れられている感じがないのは子どもだけでなく親も感じていた。それでも頑張る役員などは積極的にやって来た。そこで友達もそれなりにできたし、それなりに楽しかったが、任期が終わっても続くような関係ではなく、やはり地元の友達には叶わないと思う。
- ・家族バラバラだと、本当に必要な時にそばに居れないし、居てくれない。
- ・自然多く、親切な方々に恵まれた環境で子ども達を育てられたのは避難してきて最も嬉しいことでした。避難元を離れるときは不安がいっぱいだったが、あの頃を思えば、今は夫も一緒に暮らせており、安心感があります。
- ・避難生活にも慣れ、少しだけ安定してきたかと思っていた頃にこのコロナ禍。ガタガタと大きく崩れました。以前と仕事を変え、日々、とにかく追われるような心身共につらい状況になっています。震災から何年経っても傷は癒えることはないのかもしれない。いろいろな環境で、理由で、無気力なのかもしれない。また振り出しに戻ったような。あの頃と同じようにモーレツに頑張ることが難しいと感じている。それが10年という歳月です。少しずつ家族でこの困難を乗り越えたいと思う。
- ・避難生活がずっと続いているわけではないですが、その期間辛かったことは「福島から来た避難者」と見られかわいそうと思われることでした。自分のせいではないと思うことでなんとかやれていたと思います。良かったと思うことは、同じ気持ちで避難してきたお母さん方と知り合えたことです。意見が違った地元の昔の友達とは疎遠になりましたが、新しい友人が出来たことは支えになりました。10年経って、自分はそう思いやっけてこれているけど、子どもたちはまた別で、子どもは子どもなりの苦労や困難がある…。良かれと思った避難も本当に良かったのかとブスる自分もいます。
- ・(よかったこと)同じように関東から避難してきた独身(単身)の方に出会えたこと。(つらかったこと)仕事がないこと。

- ・親しくしていた人とコロナでお茶を飲むことも出来ず、その方々も物忘れが多くなってきて、いつまでここに居られるか不安になっています。お茶会ができなくなるとつらいです。また、2年前に夫が避難元へ帰りたいと泣きながら言って亡くなった無念さだけ残ります。
- ・仕事を失ったことはつらかったが、子ども達の教育面では広島の方が良かったと思う。
- ・広島でこの先生生きていく自信というか確信ができた。と同時に故郷から遠い場所で暮らしていくこと、帰らないことが時折、たまらなく悲しく感じる。震災直後の勢いと焦りで夢中に新生活に飛び込んだが、自分も親も年を取ってきてふと不安になる。
- ・一緒に住んでいた母親を置いて広島に自分たち親子だけで来てしまったことがつらい。
- ・頼れる親族は一人もないけど、出会う人々がみんなとてもよくしてくれる。仕事も、娘と二人の生活も安定しているし、穏やかな日々です。
- ・看護師の免許を取ったことで、自分がどういう自分で生きていきたいか、を軸に考えるようになり、それまでの肩の荷を下ろせるような展開がいくつもありました。ただ、これは私だけのこと。当時小3、避難時小4、現在大1の息子はあまり口数が多くないことも有り、つかみきれません。辛い思いをさせていたら本当に申し訳なく思っています。
- ・原発事故前から困ったときは誰彼構わず依存すればよいと思っていたので。実際避難してみて気軽にいろんな人が助けてくれた。あー、やっぱり何も困らないと思った。これから何があっても平気なんだろうなと思っている。
- ・(よかったと思うこと) 出会いかな。いろんな人たちと出会って話をして楽しい時間を過ごせたこと。(つらいこと) 生活が安定しないこと。普通に生活したいなあ。月末・月初めの支払いが毎月大変。(気持ちの変化) これからの10年を考えたときに一人ぼっちになんのかなあー、死ぬとき誰にも会えず淋しく一人で行くのは…などなど考えると楽しくすごしたいと思うと“避難元に帰りたいな”と思う。
- ・いろいろなことがありましたが、悪いことばかりではなく、新たな出会いやチャレンジをたくさんできたことは、自分にプラスになったと思います。
- ・東北から出たことがなかったので、他の都市に住んでみて、人ってあまり変わらないと思えたこと。広島の映画館とまんが図書館はサイコーです!!アスチカがあって、本当に良かったです。
- ・コロナ禍になって、「出来ないことが増えてストレスがたまる」という世間の話に、みんな色々楽しんで暮らしているのだなあと思った。「～できない」ということが、この10年、私にはほぼ日常だった。

Q17 今、楽しいこと、楽しみにしていることはありますか？

	回答数	%
はい	28	62.2
いいえ	6	13.3
無回答	4	8.9

資格の勉強／月に2回の食事する会／アロマテラピー／習い事／子供の成長・将来／自分の仕事の充実／子どもとの会話／それなりの日常／カープやサンフレを応援すること／趣味／スポーツ／副業／推し活／旅行／広島で新しい活動の場が増えること／子育て／事業の成長／コロナ後の旅行／娘の成長(一緒にお酒を飲みたい)／人との出会い／長期休暇で家族が集まること／旦那さんとの道の駅めぐりのドライブ／月一回ピアノを習っていて、毎日少しでも練習するのが、私が一人になれる大事な時間。少しずつでも曲が弾けるようになる喜び／広島のいろいろな食べ物を楽しんでいただくこと／移住してすぐに着手した家づくりがいまだに終わっていない。それが楽しい。

Q18 今後、もしも新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者となって自宅療養・自宅待機となったとき、生活物資の入手などでアスチカのサポートが必要ですか？

	回答数	%
必要	13	28.9
不要	12	26.7
分からない	19	42.2
無回答	1	2.2

Q19 アスチカに求めているもの、会員でいることの理由は何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
他の避難者と知り合うため	8	17.8
避難者同士のつながり(交流会などには出ずとも)	27	60.0
アスチカニュースなどが届くこと	22	48.9
支援情報の獲得	15	33.3
さまざまな催しの情報獲得	10	22.2
困った時の相談場所として	25	55.6
避難者であることの自己確認(「自分＝避難者」であることを確かにする)	10	22.2
精神的支え	16	35.6
避難者同士の情報交換のため	9	20.0
その他	5	11.1

(その他／補足説明)

- ・ 架け橋ツアー
- ・ 拠り所、親戚感
- ・ 我が家は避難の初期から特に必要としていない。しかし、アスチカを必要としている人があるならば、在った方がよいと思うから。
- ・ 同じ境遇の人が近くに居ると思うと励まされる。

Q20 あなたにとってアスチカの活動で必要なもの上位3つを選んでください。

	回答数	%
交流カフェ・出張交流カフェ	13	28.9
アスチカニュース・たねまく通信の発行・郵送	31	68.9
「たねまく広場」の運営	17	37.8
「たねまく広場」でのイベント	10	22.2
メーリングリスト	4	8.9
民医連健康相談会の案内	14	31.1
支援情報の獲得・仲介	20	44.4
他の支援団との繋がり	5	11.1
会からのコンタクト(電話)	2	4.4
会からのコンタクト(訪問)	2	4.4
その他	7	15.6
無回答	2	4.4

(その他)

- ・架け橋ツアー／避難者のつながり／存在自体が精神的支え

月に一度の会員への郵送物は、情報を得るだけでなく、避難者同士のつながりを感じる機会になっているようです。アスチカの事務所兼交流スペース「たねまく広場」があること自体も、避難者の存在やつながりを目に見えるものにして、困ったときに頼れるところがあるといった避難者の安心感につながっています。地元を離れた人にとって、アスチカとのつながりが親戚とのつながりの代りになっている面もあるようです。また、それぞれに頑張っている生活している、差し伸べられる手はまだ必要な場面もあり、感謝しながら頼らせていただいています。

Q22 アスチカを退会するのはどうなった時ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
広島を離れる時	23	51.1
「もう避難者ではない」という気持ちになった時	3	6.7
支援や情報が必要なくなった時	2	4.4
自立できたとき	0	0.0
アスチカの活動終了時まで会員でいる	26	57.8
その他	0	0.0
無回答	4	8.9

それぞれが広島でいろいろな人や社会とのつながりを作って生活しているが、3.11 をきっかけに広島で暮らすことになった者同士というコミュニティーは、会員にとって広島での生活が落ち着いたからといって必要なくなるものではなく、精神的に支える役割も多少なりとも果たしていると感じる。

Q23 広島の中で心を許せたり、頼り合ったりできる人とのつながりはできましたか？

	回答数	%
はい	37	82.2
いいえ	6	13.3
無回答	2	4.4

(「はい」の人)アスチカがなくとも成り立つ？

	回答数	%
はい	34	91.9
いいえ	3	8.1
無回答	2	5.4

(「いいえ」の人)なぜ？

(複数回答あり)

	回答数	%
出会いがない	3	50.0
時間がない	1	16.7
出会う場に行っても見つからない	1	16.7
必要としていない	0	0.0
その他	2	33.3

(その他)

・広島に来た時期が友達など作る時期を過ぎてた。

・話しても避難元のことかわからないから

Q24 避難先での生活の中で、不足していると思うことはありますか？(「あと、これが揃えば(得られれば)、ある程度満たされた状況・気持ちで過ごせる」と思うもの)

	回答数	%
ある	27	60.0
ない	10	22.2
無回答	8	17.8

(ある)

- ・お金／安定した収入／貯蓄
- ・自分がやりたいと思える仕事／生活が成り立つ仕事／あと5～10年ぐらい働ける仕事
- ・コロナで奪われた自由に過ごせる時間(家族で旅行に行きたいです。子供がついて来るうちに)
- ・島根原発が安全準備を満たしたとして運用されようとしています。私たちの苦しい体験を知らない、伝えられていないからだと思います、反省しています。私たちの貴重な体験を広島や島根、あちこちの皆さまへ、子どもたちへ、伝えていきたいです。
- ・家族がそろうこと
- ・親が近くに来てくれたら孫の成長を見せてあげられるのに、と最近良く思います。
- ・持ち家。定住するという事。
- ・遠方の親の介護や関りなど、良い案やアイデア工夫を知りたい。
- ・仕事を辞めた後の人間関係を築くこと(趣味を見つける等)
- ・親戚(無理だけど…)
- ・避難元に(一時的に)帰る機会
- ・地元の友達と会うこと

- 気のおけないご近所づきあい／気軽にお願いができる存在
- 必要なものを選択できる機会
- 体力
- 住むところの紹介
- 人生のパートナーが居れば心強く思える。

全体を通して。

子どもの事を尋ねる質問を新たに設けたからか、「自分の選択は正しかったのか?」「子どものためになったのだろうか?」といった、心の迷いが多く吐露されたように思います。これまで、このアンケートではあまり語られなかった思いです。

誰かの「自分の選択は正しかったのか?」「子どものためになったのだろうか?」という迷いのつづやきを読んで「自分だけがそう思っていたのではなかった」と思った避難者も一人や二人ではないのではないかと思います。避難してからの生活ではその選択から生じる困難に直面すると迷いが出ることもあります。でも、「時には、そんな迷いがチラつくのは自分だけじゃないんだ」「みんなもそんな思いを抱えながら生きているんだ」と知ったことで、少し気持ちが軽くなり、またがんばろうという気力のようなものが湧いてくる避難者もきっと居ることと思います。

どの選択もみんなそれぞれが一生懸命考えて、その時の最善を選んで行動したものです。そして、きっとこれからもそうしていくはずです。時にはうまく行かないことがあっても、最終的にそれぞれが「これでよかった」と思えるように、同じ境遇だからこそ与え合える“支え合い”をこれからもして行ければよいなと思います。